

運とツキ

2022. 9. 26

世の中で成功者、あるいは一流といわれる人たちは、たいてい運やツキをもっている。この運とツキだが、重なる部分もあるが、相違点もある。

ツキというのは、チャンスをつかむ能力ではないかという方がいる。思いがけないラッキーが訪れて、それを生かしたときに、ツイていたという言葉を使ったりする。だが、例えば一代で会社を起こし、成功した方などは、自分がここまでこられたのはツイていたからだとは言わない。自分には運があったからだと言う。

それはなぜか。苦しみを克服した人にしか運はないんだというのである。一代で大きなことを成し遂げた人は、自分の努力ではどうしようもない様々な逆境やピンチを切り抜けてきている。そのとき、初めて運というものを体感するのだと言う。したがって、会社を急成長させた若い経営者の方などを見ていて、この人はツイているかもしれないけれど、運はないかもしれないと感ずることがあると言う。

また、本当の苦しみというのは人生に3回しかないそうである。1回目は生まれてくるときである。記憶には残らないが、人は産道を抜けて大変なことを乗り越えて産まれてくるわけだから、誰しも皆運がある。もう1回は死ぬときである。自分の意思とは関係なく、死は訪れ、息を引き取る。これは大変な苦しみである。

そうすると、人生で本当に苦しむことは、あと1回しかない。それなのに多くの人は、10番目か20番目か、あるいは100番目の苦しみに出遭って大騒ぎをする。今、苦しんでいることは、自分の人生で何番目の苦しみなのかと考えてみると、展開は変わってくる。

きっと、ツイてはいるが、まだ運を感じるほどの苦しみは経験していない人が多いのだろう。では、自分はどうか。今までに苦しいことは何度もあった。だが、それらが人生で一度きりの苦しみだったかと言われれば、そうとは思えない。苦しみ慣れしているという側面もある。振り返ってみると、ツイてもいないが、まだ運を感じるほどの苦しみはなかったように思う。

苦しみというのは、人が判断することではない。苦しいかどうかは、本人次第である。本人にはかわからない。同じようなことでも、苦しいと感ずる人とそうでない人とがいる。まわりから見ると苦しいはずなのに、それを出さない人もいる。

これからも苦しいことは続く。そのたびに、これは〇〇番目くらいだなと思えることは大切である。そのうち、苦を楽しめるようになるかもしれない。運とかツキとか考える前に、目の前のことを地道にやっつけていくことである。